

令和7年度 静岡大学教育学部附属島田中学校

# 国語科 公開授業Ⅱ 資料

【单元名】

## 私が文学を読む意義

～読書の意義と効用について理解する～

附属島田中学校 国語科 石野裕子

3年B組

追究テーマ 『故郷』の文学作品としての価値とは。(登場人物の全体確認・国語便覧の資料紹介 なし / 追究過程を語り合う活動 あり)

時	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班
1	範読								
2	学級の追究テーマ決め								
3	・故郷が書かれた頃の時代背景とは。	・登場人物の役割は何か。	・登場人物の人物像(変化も含む)。	・回想の場面を入れたことの効果とは。	・登場人物について(性格・役割)。	・課題を決め、関係図を整理しよう。	・整理しよう。 ※登場人物、語彙や表現の意味を確認していた。	・私と閨土のお互いに対する心情とは。	・「私」にとっての故郷はどのように変化したか。
4	・「私」にとっての希望とは。	・物語のあらゆる変化を探そう。	・作者は最後の場面で何を表現したかったのか。	・迅ちゃんにとって昔と今の故郷の違いとは。	・最後(P195~196)の部分の考察をしよう。	・故郷はどんな町か。 ・主人公との関係性がわかる役割。 ※2つの課題を分担して取り組んでいた。	・「故郷」で伝えたいことは何か。	・情景描写を捉えよう。	・登場人物はそれぞれどのような役割を果たしているのだろう。
5	・「紺碧の空」(P184 L5, P196 L5)と「希望」の関係性とは。	・「希望」とは。(最後のシーンの整理)	・作者は最後の場面で何を表現したかったのか。②(希望とは)	・最後の段落を解説しよう。	・閨土の“望むもの”とは。	・内容を整理しよう。 ※前時までの追究を共有し、「美しい故郷」と「閨土」の関係性を話し合っていた。	・「故郷」における「希望」とは。「道」とは。	・私にとっての「故郷」とは。(考え方の変化など。)	・「私」は何を望んでいるのか。
6	小集団のメンバーを入れ替え、追究してきたことを語り合う。(20分) ⇒ もとの小集団に戻り、それぞれが学んだり考えたりしたことを共有。(30分)								
7	・『故郷』の魅力とは。	・「紺碧の空に…かかっている」の役割は何だろうか。	・情景描写から読み取れることは?	・作者が伝えたいことは何か。	・『故郷』の文学作品としての価値とは。	※明確な課題設定なし。 「厚い壁」ができた理由、「紺碧…」の描写と「希望」など、「私」と「閨土」の関係性に注目して話し合っていた。	・色の描写に注目して、情景を捉えよう。	・私にとっての「故郷」とは。②	・美しい故郷と今の故郷の違いとは。
8	小集団で追究してきたことを全体で共有。(50分)								
9	学級の追究テーマについて全体で語り合う。								
10	「私が文学を読む意義」を文章にまとめる。								

※中国の物語

9/19 故郷 魯迅

☆文学と読む意義とは

3Bの追究テーマを決めよう。

題名が「故郷」の理由

作者の主張なの？

物語における「希望」「道」の意味とは

回想の場面も入れた理由

「猪」とは登場させた理由

故郷の亦文化

「紺碧の」情景描写の比較

登場人物ごとの役割

「怪土」はこの人物像である理由

暗い

「怪土」揚おぼし「の描かれ方

「クニ」？「クニ」？

作中の時代背景

魚近にもこの「故郷」とは

魚近にもこの「希望」とは

終末にある？

「故郷」で伝えたいことは何か

「故郷」の魅力とは

「故郷」はなぜ評価されているのか

（展開は派手ではない）

「故郷」の文学的価値とは

自分たちはこの物語から何を

感じ取れるのか

この物語を 価値

文学として 残した理由とは

この物語の存在価値 意義とは

10/14 故郷 魯迅

3B 追究テーマ

「故郷」の文学作品としての価値とは。

☆文章表現も味わう/想像を突き出す

表現へのこだわり

丁寧な情景描写「紺碧の空」

心情描写 伏線となる表現

読み返すおもしろく

理解が深まる

↑? ↓読み返す ↓! ↓!

読み深める「経験

言葉を超えて想像できる

☆歴史・文化の伝達

中国の歴史について知ることが出来る。

独特のもの「犬らしさ」

☆読者への訴え/読者の変化を主観

×セージ性「私」の悩み

主張

「希望とは...」 「地上の道」

読者に考えさせる

「...もいえない」

直接的な言葉でなく

登場人物を通して表現する

（物語として）

偶像崇拜

リアルさによる感動 願うだけが 行動しない

☆ 説明文ではなく

☆ 文学リテラシーが大事なこと

【私が文学を読む意義】3年B組の生徒が第10時にまとめたもの（生徒の記述をそのまま掲載します。読みにくい部分もありますが、ご容赦ください。）

私にとって文学を読む意義は、「人生の幅を広げ豊かにするため」である。

1年生の時の最初の授業でやった、「なぜ国語を学ぶのか」という課題について考える時にはあまりピンと来ていなかったが、今になってなぜ「豊かにするため」という結論に至るのかということが理解できるようになったのではないかと思います。

私は文学を読むことによっていろいろな力を身につけることができると確信している。

まず一つ目に挙げられるのが読解力である。これは、今回の授業で扱った「故郷」により強く思った。「故郷」は、一度読んだだけでは意味が分からない、ただ単に難しい文章だとまとめられてしまうが、何度も繰り返し自分なりに考えながら読んでいくことで作者はどのようなことを表現しているのか、どんなことを描いているのかとくことがしっかりと理解できるようになる。国語の授業で、自分の中でどう考えと結びつけながら読書をしていくとより文学を楽しめるのかということがここで学べたと思う。

2つ目は、表現力である。説明文や論説文などだと、読者により分かりやすく伝え、納得させるという目的があり、言葉が厳選されていることがほとんどである。しかし、文学は修飾語が多く、一つ一つの言葉に登場人物の思いや情景がこもっており、作者の意図が必ずある。だからこそ、説明文などだけを読んでいるだけでは身につけることができなかった表現力が文学によって鍛えられるのではないかと思います。これは読む時だけでなく、自分自身を表現する時、考えを主張する時にも、感情を誰かに伝える時にも役立てられるのではないかと。

3つ目は、想像力である。国語の授業の内容で言うならば、「少年の日の思い出」がとても印象に残っている。この時には、ストーリーテラーである僕から見るとエーミールは悪いやつで自分のことを軽蔑しているように思えるが、本当にエーミールはそうなのかということを考えていった。エーミールの立場で考えてみたり、他の人から見たらこの状況はどう映っているんだろう、などと考えてみたりすることこそが想像力を育む場面であったと思う。想像力を育むと同時に批判的思考をする力も身につけることができるのではないかと。

上記の力とは別に文学が私に与えてくれるものとしては、人間性が挙げられる。

人間性は人間性でも私は、感情的な内面を築き上げてくれるのが文学だと思った。なぜなら、世の中にはたくさん文学があり、それぞれ時代によっても、設定によっても、登場人物によっても様々な感情があって、自分の実際の生活や経験とも結びつきやすい、そして自分が考えたことのあることが言語化されるという良さもあると思ったからだ。同じ「うれしい」であっても、シチュエーションはたくさんあって、その気持ちになった要因も、そのあとの影響も様々で自分が今まで想像していた世界がより広がっていくようなことを感じられるのが文学の良さだとおもっていることもあり、文学を読むことで人間性がより自分の中で質の高いものへと形成されていっているのではないかと。

私にとって文学を読む意義は、「登場人物の人生を知ること」である。

私は「ごんぎつね」が小学校の授業の中で一番心に残っている。それぞれの立場から心情を考えることで、思いがすれ違っていることがわかり、切なかったことを覚えている。ごんは償おうとしていたし、兵十が恨むのもお母さんへの思いからだっただけで、両方誰かを思って行動していたのに、どちらも後悔するような結末になってしまったことが切なかった。この物語では、それぞれの思いを知ったからこそ、より深く感じることもできたのだと思う。また、「故郷」では、情景描写などから想像を膨らませることで、登場人物の心情を考えた。言葉以上のことを感じ取れることに魅力を感じ、物語では、額面どおりのこと以上に考え、想像することで価値を見出すことができるとわかった。

このように、文学作品では、ストーリーや表現から、心情などを感じ取ることが出来る。映画やドラマ、アニメなどの映像でも、感動したり、楽しんだりすることは出来る。でも、私は、文学作品を読んだ時の感覚とは少し違うと思う。言葉だから感じる、言葉にならないような、目に見えないような感情や空気感があると思う。それを感じることが出来る。そうすることで、私は普段文学作品をよむとき、その世界に入ったような感覚になる。自分が登場人物になっているような気持ちになったり、登場人物を応援したりすることができる。また、授業のように、立場を変えて読んだり、表現を分析したりすることは、登場人物の思いをより深く理解することに繋がる。そして、登場人物の行動の意味がより深くわかったり、自分の現実の人生と違って、人同士の思いの、すれ違いや通じあったことがわかる。登場人物に思いを馳せて、その人の人生の一部を知ったような気持ちになる。

私は、これが文学作品を読む意義だと思う。言葉から、微かな心情や雰囲気を感じとり、登場人物に思いを馳せることで、その人の人生の一部を知る。だから、色々な気持ちになれるし、なにかに気づくこともある。それは自分の人生を少し変えてくれるのではないかと思う。また、なにより、私は、本を読んで誰かの人生を体験したような気持ちになるのが好きだ。だから私は、文学作品をこれからも読みたい。

私にとって文学を読む意義は、「理念の探究」である。

人は、一生を通して少しの世界しか見ることはできない。だから、文学を通して新たな景色を知ろうとし、作者の理念を知ろうとする。「故郷」の『それは地上の道のようなものである』という一文や「走れメロス」の『勇者は、ひどく赤面した』がいい例だろう。昔話ならばさらにわかりやすく理念が表れている。その理念に自分が共感できれば愛読書になり、受け入れられなければ読まなくなる。たとえ「楽しいから本を読んでいる」と主張する人がいても、その人の理念は、少なからずその人の読む本の理念と似通っているはず。理念の書かれてない文学を好む人はほとんどいない。なぜならそれはひどくつまらないものになってしまうからだ。

だからこそ、文学の価値は「理念」にあると思う。

私にとって文学を読む意義は、「文学を読み、楽しむため(面白いから)」である。

意義と聞かれると、ついついその文学を読むことで自分にどんな得が生まれるのかを考えてしまうが、私はそれは意義ではないと思う。私は意義とは、自分がなぜその行動をするのかの自分なりの理由のことだと考えている。想像力が広がるとか、共感能力が高まるとかは、文学を読むことでついてくる力で、「共感能力を高めるために今日も文学を読むぞ!」という気持ちで私は文学を読んでいない。

私は、文学を読む意義、理由は結局「面白いから」という簡単な気持ちにまとまると思う。まず、文学はその書いた人の想いや、価値観が特に表れやすい。だから、その文学を読むことで、ただ自分の人生を送るだけでは感じることもなかった面白い価値観や、表現、興味深い考えに出会うことができる。これは、文学ならではの特徴で、私が文学を読む意義が「面白いから」だと思う理由の一つだ。

そして、文学は自分一人で読むだけでなく、友達と読んで共に考えを深めていくことができる。例えば、授業でやった「故郷」のように、文学を読んで、友達と感想を言い合っ、共通の疑問について考察して、時には解釈の違いで議論をして、と友達と文学を読んで、考えを深めて深めまくる作業は、とても面白いと今まで文学を読んできて感じている。

文学は一つ一つの奥が深いだけでなく、世界には沢山の種類があり、似た種類でも作者によって表現の仕方が違う。だから、さまざまな価値観に出会うことができるし、考察も無限にすることができる。そうやって、ずっと「面白い!」と思うことができる。

だから、私は文学を読む意義、理由は「面白いから」だと思っている。

私にとって文学を読む意義は、「自分を作ること」である。

小学校1年生などまだ知らないことが多かったりする時から授業などで主に文学を読んできているなかで全くおなじ文学はなく、それぞれ違う人や違う時間に書かれているものでいろんな話の種類がある。また、それらに触れる自分もいろんな感情や考えを持つことができると感じた。具体的にどの話で自分が何を考えたかなどは記憶に残るものが少ないが、考えることはどの話を読んでもしているはず。考えを持って自分の中でそれを理解したり、捉えて自分に取り込んでいくことで自分という人が「どんな考えの特徴があるのか」、「なにに興味があるのか」が現れると感じた。文学が自分を引き出してくれるイメージを持っている。また、文学を読み自分の知らないことばを知ったり、自分の知らない状況や環境に触れたりすることができ自分だけでは生まれなかった考えや感情を自分のものにできる。そうすることで自分をより育ててくれると感じた。このように文学を読むことで自分らしさや自分の知識を広げる、つまり自分自身をつくることができるということだ。それが私にとって文学を読む意義だと考える。

私にとって文学を読む意義は、「たとえ自分の経験したことのない、全く関係のないことでも心を動かしてくれる」である。私は小学校のときに学習した「スーホの白い馬」というお話が印象に残っている。モンゴルの草原で大好きな白馬と共に暮らしていたのに、王によって白馬が取り上げられ、それでも尚、白馬はスーホの元へ戻ってきて死に、スーホは白馬の体で馬頭琴を作りずっと一緒にいる彼らに私は胸を打たれた。

モンゴルの草原なんて、私には全く関わりがない。それでも白馬を自分の愛犬に重ねて考えてしまった。「もしこんなことが私に起こったらどうしよう。大好きな愛犬が取り上げられて、傷つけられたらどうしよう。傷ついても深い愛情で戻ってきてくれるなんて。」と。その時は怖くなって涙を浮かべた。そして私もスーホと同じように愛犬との強い絆ができたらいいなと思ってとっても大事にお世話している。これくらい、物語の与える影響は大きいと思う。物語には、たとえ自分の経験したことのない、全く関係のないことでも心を動かしてくれる力がある。

また、実は私は最近、ヨーロッパの貴族女性や女王の伝記物語を読むのに熱中している。美しい宝石やドレスなどをなんでも手に入れて豪華絢爛に暮らす中世ヨーロッパの女性たちをみて素敵すぎるという読んで思う。もちろん没落しても自分を強く持って生きる貴族女性にも強く憧れる。

「もし私がこのような中世ヨーロッパの貴族として生まれていたらどんな生活をしよう。どんな宝石のネックレスを作ろう」などと妄想するのが大好きだ。読んだ伝記物語をもとにこのような妄想をしていると、嫌なことも忘れて幸せな気分になって自然と笑みも浮かべてしまう。そして私は、中世ヨーロッパには行けなくても、人生の中でイタリアの街角でワンピースを着て、日傘をさして、(貴族女性には劣るけど)美しいネックレスをつけてショッピングすることくらいはしようと決めている。ここでもやはり物語の、自分の体験したことのない、関係ないことでも心を動かす力が働いていると思う。

このように、物語を読むと、まず人は、経験したことのないことでも経験したように錯覚し、自分と重ね合わせ、嬉しい、悲しい、驚き、憧れなど色々な感情を抱く。そして、物語がしてくれるのはここまでだけかもしれない。ここからどう行動するかは人による。特に何も行動が変わらない人もいるだろうし、私みたいにこれからはこうしてみようとか、いつかやってみたいと思う人もいるだろう。しかし、幸せになったり、悲しくなったりと様々な感情を感じさせてくれることだけでも、人の人生を豊かにしてくれていると思う。改めて、物語の存在に感謝したい。

私にとって文学を読む意義は、「文学を価値づけること」である。文学を読む上でその文学が自分にとってどのようなものか考えることに意義があると思います。価値づける、というのは教訓や学びを得ることとは違うと思います。「私」では不思議さや疑問を感じ、追究してきました。その時に感じたのが、「私」が自分にとって不思議さに面白さがある、という価値づけることです。今まで読んできた物語それぞれの世界観があって、そこに自分にとっての価値を考え感じることに意義があると結論づけました。小学校の文学で特に「だいごうじさんとがん」が心に残っているのは、がんのかっこよさと信頼、という価値観が自分にできたからだと思います。今回の「故郷」では希望や道に物語におけるメッセージがあったと考えました。文を読んでいくと生活に対する願わないことが希望になっているとわかりましたが、自分にとって「故郷」が希望とは何か、考えさせる文学の価値があると思います。物語からの学びだけでなく、物語を通して感じたことや考えて結論に至ったことが自分の価値になると思いました。私にとって文学を読む意義は、文学を自分の中で価値づけて心に落とし込むことだと考えました。

私にとって文学を読む意義は、「人生を豊かにすること」である。

私は、文学を読むことでさまざまな人の人生を疑似体験できると考える。

例えば、「ちいちゃんのかげおくり」では、戦時中、防空壕で1人で過ごす少女の姿を通して、平和な今を生きる私の生活が、どれほど恵まれているかを実感した。また、自分も逃げなければならない中で、ちいちゃんを助けてくれたおじさんの姿から人の温かさや思いやりを感じる事が出来た。「空中ブランコ乗りのキキ」では、「自分の方が周りの人より優れていると思われたい」という人間の心理が描かれている場面から、自分にも似たような気持ちがあったことを思いだした。ズルをしてしまったときの経験がよみがえり、自分自身の心と向き合うきっかけとなった。また、「故郷」では迅ちゃんと閩土の関係を通して、今いる仲間を今まで以上に大切にしたいと感じた。そして、ただ願掛けするのではなく、目標に向かって自ら行動していこうと思った。このように、文学を読むことは様々な人の人生を疑似体験できるだけでなく、自分の経験と重ねたり、これからの生き方について考えたりすることが出来る。また、「もし、自分が主人公と同じ立場だったら、どんな選択をするか。」と想像を膨らませることができ、視野が広がる。人生は一度きりだからこそ、他者の視点から学びを得て、それを自分の人生に活かすことが大切だと思う。文学には、人生を豊かにするためのヒントがたくさん隠されている。だから、私にとって文学を読む意義は「人生を豊かにすること」だと思う。

私にとって文学を読む意義は、「自分とは違う人の生き様から学び自らの人生を豊かにすること」である。小学校、中学校の国語の授業を通して様々な国や時代、状況を場面にしたもの、幅広い年齢、性別の主人公の人生が描かれたもの、自分とは全く違う視点を持った人物が登場するものなど数多くの文学を読んできた。授業以外では自分が好きなジャンルの物語を主に読む私にとって、国語の授業で読んだ文学は新しい気づきに富んでいた。例えば、友達と自分の間にすれ違いがある現代の小学生を主人公にした物語では、親しい友人の間でも言葉にしないとお互いを完全に理解することが難しいということを知った。また、他の話を読んで、自分が周りの人と違って不利な状況にあるとしても、周りの人たちと協力することで有利になり、生き残っていくことができるという理解し、頭を働かせることと協力することの重要性を学んだ。この物語では、魚が主人公で、一見人間とは違う世界の話にも見えるが、人間の社会でも協調性がないと周りにつき合っていくということは年齢が上がるにつれて分かってきた。人間は皆違うのだから互いに助け合うことが大事だという教訓がこの物語には含まれていると思う。たとえ主人公が自分とは全く違う生物であっても、その物語から自分の人生に生かせることは多いと実感した。自分が生きたことのない時代の人々が描かれている物語から、自分が経験したことのないものに直面している登場人物の心情を読み取ろうとすることで世界の見方は変わる。外国を舞台にした物語を読めば、自分が行ったことがなくてもそれがどのような国なのか、どのような人たちがいるのかということを知ることが出来る。物語を読むことを通じて登場人物に思いを馳せ、感情移入をして彼らの心情も想像することができる。このように、色々な人の生き様が自分自身に衝撃や感動を与え、その分だけ自分が何かを見る視野が広がっていく。文学は、平面に綴られた文字の連なりに過ぎないが、それを読んでいるその場所から、時代、場所、年齢、性別、立場を超えて、個性豊かな人々の人生を見せてくれる。物語に登場する人々から何かを吸収して自分を成長させる力、登場人物の経験や、物語を読んで生まれた感情をもとに困難に対処する力、物語から読み取った教訓を人生に生かす力を養ってくれるのが文学であると考えている。文学をただ読み、楽しんで終わるのではなく自分とは違う人たちの生き様から学んだことを取り入れて自分の人生を豊かにしていくことが私にとっての文学を読む意義である。

私にとって文学を読む意義は、「言葉を生かした文章が作れるようになること」である。学校の授業でやった文学の多くは、一度読んだだけでは理解できないものが多いと感じます。だからこそ何度も読み返すことで描写の工夫や物語の特徴に気付くことができ、その物語ならではの雰囲気やテーマを発見できるところに楽しさや面白さを感じました。故郷を最初読んだ時は、内容がまったく理解できなかつたけど、追究を通して「文」文注意深く読むことでそれぞれの描写の意図を読みとり、そこから物語の流れを掴むことができました。描写一つ一つには意味があり、それを正しく理解することが表現を通した筆者の狙いを理解することに繋がると思います。文学を通して比喻表現や情景描写など様々な表現に触れることができました。それによって、自分自身の語彙が豊かになり文章をつくる上で、より相手に伝わりやすい構成、表現、言葉の選択を自然とできるようになったと思います。

私にとって文学を読む意義は、「得たことを他人と交流し合った上で『賢く』なること」である。9年間、色んな本を授業やプライベートで読んできたけど、自分は文学作品の正しい読み方はこうだと思った。まず自分の中になかった新鮮な発想や考え、知識などを吸収し、そして同じ文章を読んだ他人同士で吸収したものを交流して、そこでまた新たな意見を取り入れ、自分の中に残ったものを発展させ、その文学作品を読む前より、『賢く』在るようにすること、である。(ここでいう賢くなるとは、頭が良くなるにとどまらず、感受性や社会性、人間性など幅広い意味で)

つまり自分の考えとして、「文学作品は『他人との交流』をしてこそ真の意義を発揮する」のだと感じた。ただその文章を読んで、そこから得れることを自分の感じられる範囲にとどめてしまうことは非常に勿体無い行いであり、そして大体人によって同じ文でも解釈や考え、得るものはちよつとずつ変わってくるわけだから、他人と交流を行うことで、その文の新たな読み方を知れる。逆に自分だけの感想を他人に伝えることで周囲も賢くなる。

これまで沢山の国語の授業を受けてきて、「文学作品には人の数だけ読み方がある」と知った。

特に今回の「故郷」みたいな難しい文学作品はより他人との交流がないと読解が困難であり、困難だからこそより交流から得られることも大きい。

もし、今後の人生で文学作品を読むとなった時、授業という都合の良い交流の場が設けられることは少ない。しかし、今の世の中、他人の感想など容易に知れる。今後も「他人との交流」とセットで文学作品を読んでいきたい。

私にとって文学を読む意義は、「答えのない問いを考え、その思索を通じて自己の人生を、より一層豊かにすること」である。文学作品が問いかける深遠なテーマは、単に嘘(フィクション)の世界観に留まらず、人のあり方や世界(社会)の根本的な構造、自然との関わり方など様々な大切なことを考えさせ、時に人生観や価値観を大きく変える力を持つ。そのような多様な価値観の獲得は、共感力や他者理解の能力にもつながる。例えば、個人的に印象に残っているのは、『竹取物語』で描かれた「感情は穢れてある」という概念だ。この極端ともいえる(少なくとも、私はそう感じる)価値観は、人間の本質を吟味すれば正しいとも、間違いだともいえる。人の感情は、時に人を殺し、恨み、妬み、蔑むなど、穢れたものと言える。しかし、同時に、喜びや幸せを感じ、相手を思いやり、慕う気持ちもある。感情がなければ、確かにこの世は美しくなるだろう。しかし、それは本当に美しいと言えるのだろうか。普段当たり前に抱く感情というものは忘れたくないし、穢れた面があるからこそ、この地球は美しいのではないだろうか。ただ、それは完全なる秩序や人の理想像な姿を生きる純粋な月の住民には到底分かり兼ねるだろう。感情を持つとはどういうことなのか、そしてそれがどういった影響を与えるのか、即ち人としての生き方は何なのか。改めて根源的な人生に係るテーマを深く考えさせられた。

文学作品との向き合い方は一つではない。国語の授業ではその物語を深く追究するが、それによって毎回見える景色が変わってくる。初読時には読み飛ばしていた(気づかなかつた)情景描写や細かい感情の変化、訴えかけられているメッセージなどに改めて気づくことができ、物語の多層的な構造を深く理解できる。精読することもぼんやりと読むことも、それぞれに違った面白みがある。精読は作品の骨格と細かく緻密な展開、筆者の隠された(文に自然に表れた)メッセージに触れる喜びがあり、ぼんやりと読む時とは全く違った面白さがある。作品に対する捉え方が時間や経験とともに変化していく様子も、文学作品を読む面白さではないかと感じる。

文学作品というものは文化・芸術の部類に入り、衣食住と異なり、生きていくことだけを考えたら無くてもいいものである。そもそも文化が発展するのは、平和で人々の生活や心に余裕があるときであり、余暇時間に行われるある種の暇つぶしである。しかし、そんな中でも人々が文学作品を作り、読むことを選んだのは前述のような「思慮を巡らす魅力」があるからではないか。人生は短く、当然、すべてのことを直接感じたり真理に達したりするだけの時間はない。しかし、文学作品を通じて他者が一生かけて手にした価値観や真理、人生観をわずか数時間で学べる。こんなにお得なことはない(もちろん、完璧に理解したとは到底言えず、表層的な知識にとどまるが)。文学作品を読むということは、数時間の人生(体験)や価値観を、虚構の世界観を通じて知ることである。

文学作品を読むという事は、人類の数千年の歴史の中で連綿と受け継がれ、価値があると認められてきた行為に相応しい底知れぬ魅力を備えている。

3年A組

追究テーマ 作者は『故郷』で何を伝えたいのか。 (登場人物の全体確認・国語便覧の資料紹介 あり / 追究過程を語り合う活動 なし)

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班
1	範読								
2	学級の追究テーマ決め								
3	・昔の故郷と今の故郷を比較しよう。	・主人公にとって「希望」とは。	・それぞれの登場人物が物語に与える影響は何だろう。	・登場人物の役割と心情の変化を整理しよう。	・主人公にとっての故郷とは。	①「私たちの経験しなかった新しい生活」とは、どんな生活? ②登場人物が作品に与える役割とは? ※①は文章に書かれているままだと結論づけ、②に取り組んでいた。	・登場人物の役割について考えよう。	・「私」と「閩土」の関係はどう変化したか。	・登場人物が物語に与える影響とは?
4	・主人公にとっての「希望」とは。	・作者にとって「希望」とは。	・この物語における「希望」とは何か。	・2回出てくる「紺碧の空…」は何を表しているだろう。	・主人公の望む「新しい生活」とは。	・登場人物の与える役割と心情の変化。	・情景描写について考えよう。	・景色と心情を結びつけよう。	・登場人物が物語に与える影響とは?② ・情景描写「紺碧の空…」が2回出てくる意図とは? ※前時の続き→新しい課題を設定していた。
5	・それぞれの登場人物が物語に与える影響とは。	・題名を「故郷」にした意図とは。	・なぜ筆者は「故郷」という題名にしたのか。	・主人公にとっての希望とは。	・情景描写などから、登場人物のどんな心情が読み取れるか。	・この作品における希望とは何か。	・この物語における希望とは。	・主人公にとっての希望とは?	・筆者は物語を通して何を考えてほしいのか。
6	・2回出てくる「紺碧の空に…」の意味を考えよう。	・作者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・なぜ筆者は「故郷」という題名にしたのか。②	・題名にこめられた思いとは。	・希望とは何か考え、なぜ題名を「故郷」にしたか、につなげよう。	・なぜ「故郷」という題名なのか。	・作者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・筆者はなぜ「故郷」というタイトルにしたのか?	・なぜ題名が「故郷」なのか。
7	・筆者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・それぞれの情景描写の役割を考えよう。	・作者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・作者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・作者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・作者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・作者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・作者は「故郷」で何を伝えたいのか。	・筆者はなぜ希望を描くのか
8	学級の追究テーマについて全体で語り合う。 ※追究テーマを取っ掛かりに、話題の中心は「希望」に関わる解釈だった。								
9	「私が文学を読む意義」を文章にまとめる。								
10	※第9時の前半は、小集団で①前時を通して考えたこと②どうして伝える手段が「文学」だったのか、について話し合った。								

10/15 故郷 魯迅

★私が文学を読む意義

3Aの追究テーマを決めよう。

登場人物が物語に与える影響

情景描写「紺碧の空...」

二回出てくる意図「つながり」

結末の展開の意図とは

なぜ題名が「故郷」なのか

物語の「新しい生活」

「新しい生活」つながりがある

主人公にとっての「希望」とは

筆者は物語を通して何を考え

筆者はどんな思いで「故郷」をかいたのか

改革への思い?

主人公「筆者は「故郷」で何を

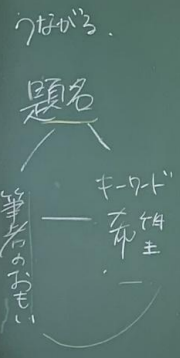
筆者の「故郷」に対する思い

「美しい故郷」をよ?

「望土」の存在?

何か表現するもの、伝言もの

筆者はなぜ「希望」を描くの



11/14 故郷 魯迅

★私が文学を読む理由

3A追究テーマ  
作者は「故郷」で何を伝えたいのか。

「ぼんやり」

まどうみかけた... 昔の生活

「だかり」みんな、外の世界への希望があった

希望

文学のよう

中国を改革

だから

新しい生活 水窪、宏見におく、ほしい

現在の中国の状況

(例) 王二おばさん コンパス

希望がない? 望土 精神 ↓

人物の変化で 望土と自分 身全差によって

「衰退」を描写

初め 望土「英雄」

紺碧の空...」

変化 おわり 望土 存在なし

「私」の希望

魯迅の思い

願うだけでは× 行動すんま

願うだけ 祈るだけ

望土の希望

「願」は? 偶像崇拝

希望 一人ではもてない? 個人/社会

先づ人が多くなれば道となる

※授業者が書き間違えました。

3年C組

追究テーマ 『故郷』における「希望」とは。（登場人物の全体確認・国語便覧の資料紹介 あり / 追究過程を語り合う活動 あり）

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班	9班
1	範読								
2	学級の追究テーマ決め								
3	・登場人物を整理しよう。 ※人物相関図を書き、お互いに対する心情を含めて整理していた。	・魯迅が故郷を書いたときの状況。	①物語の内容を整理しよう。 ②P185 L4「紺碧…」とP196 とのつながりと順番の違いの意図とは。 ※物語の展開を確認した後、②を話し合っていた。	・登場人物の役割とは。	・「故郷」を作った背景とは。	①物語の内容を整理しよう。 ②登場人物同士の関係性。 ※物語の展開を確認した後、②を話し合っていた。	・閩土の、この物語での役割とは？	・登場人物の関係と役割について考えよう。	・魯迅の心情変化。 ※「私」の心情変化を追っていた。
4	・「喜びと寂しさの色の顔」とは。 ※閩土にどのような喜び・寂しさがあるのか話し合っていた。	・迅ちゃんの物語における心情の変化。 ※「美しい故郷」と閩土の関係、楊おばさんの存在意義を中心に話し合っていた。	・今の故郷と昔の故郷の違いとは。	・閩土の Before と After を比べよう。(性格+様子)	・登場人物の特徴と役割とは。	・各場面の意図を考えよう。	・迅ちゃんはどういう変化をしたのか。	・情景と登場人物の心情を結びつけて考えよう。	・「私」の心情変化。 ※課題は変わっているが、話し合っている内容は前時の続きだった。
5	・迅から見た水生と宏児とは。 ※水生と宏児にどのような思いを抱いているか話し合っていた。	・迅ちゃんの物語における心情の変化。② ※閩土と再会する場面の「厚い壁」を中心に話し合っていた。	・主人公の心情の変化は。 ※“というより、「私」のものの見方・捉え方の変化?”とメモがあった。メモ通り、実際は「私」が故郷をどのように捉えているか話し合っていた。	①みんなのお悩み相談室 ②迅ちゃんの二人(水生・宏児)に対する願いとは。 ※①で迅・閩土・楊おばさんの悩みを整理した後、②を話し合っていた。	・各場面の意図とは。	・時代背景を調べよう。	・迅ちゃんは、ちびっこ二人にどんな生活を送ってほしいか。	・『故郷』における「希望」とは。①	・「今」の故郷と「昔」の故郷の変化は？ ※最終的には、「故郷は変わったのか、変わっていないのか。」について話し合っていた。
6	・迅にとって故郷はどのような存在か。	・迅ちゃんの物語における心情の変化。③ ※離郷の場面について話し合っていた。宏児と水生の関係に注目していた。	・主人公の願いとは。	・閩ちゃんの願いとは。 +迅ちゃんの思う希望は？	・表現の工夫について考えよう。	・時代背景と「故郷」を結びつけよう。	・迅ちゃんにとって「故郷」は何が変化したのか。	・故郷の変化と中国の時代背景を結びつけて考えよう。	・当時の中国の歴史的背景と魯迅の人生を関連付けて「希望」について考えよう。
7	・『故郷』における「希望」とは。	・迅ちゃんの物語における心情の変化。④ ※作品の終末まで読み進めていた。「希望」について話し合っていた。	・主人公が考える「希望」とは。	・情景描写と心情を結び付けよう。→迅ちゃんの希望。	・筆者が「故郷」を通して伝えたいことは。	・「故郷」の表現の工夫は？	・『故郷』における「希望」とは。	・「道」とは何か。	・深まった今、もう一度読み返そう。 ※全文を丸読みで音読した後、「希望」について話し合っていた。
8	「小集団で追究してきたことを語り合おう。」 ※活動内容の共有(5分)→小集団で追究の過程を振り返り(5分)→小集団のメンバーを入れ替え、各自の追究過程を語る(30分)→元の小集団に戻って共有する(5分)→振り返りの記入(5分)								
9	学級の追究テーマについて語り合う。(本時)								

10/30 故郷 魯迅

☆ 私が文学を読む意義

3Cの追究テーマを決めよう。

情景描写の効果

紺碧の空...

登場人物の役割

登場人物の変化

見たり

心情

関係性

迅 ↓ ↑ 閻士

「希望」の「違い」

希望が

キーワードでは？

このテーマに至るまで、長い...

「故郷」における「希望」とは

魯迅が考える「希望性」自体性があるのか

各場面での意図

「道」の描写

「偶像崇拜」「手製の偶像」

の解釈

「故郷」が伝えたいこと

作品をついた背景

時代的  
作者の感情的

翻訳の過程の工夫

。「希望」を定義づけたいわけじゃない

。魯迅は「迅ちゃん」

。自分の「希望」？

「なる」

の「希望」は「希望」をどう考えているか、

を解釈したい